

◆◆7月◆◆

	講義内容	講師
7/20 (土)	【精神医学】 精神疾患Ⅰ 発達障害・児童思春期	東京大学大学院医学系研究科 金生由紀子 准教授
	【発達】 自閉スペクトラム症の支援現場の実際 形式：講義 概要：医療・福祉の現場における自閉スペクトラム症支援の実際について、医師と臨床心理士が様々なケースを通じて紹介する。	ときわこども発達センター 館農幸恵 児童精神科医 (株)スペクトラムライフ 桑野恵介 代表
7/21 (日)	【心理療法】 コラージュ療法の理論と実践 -コラージュ・ボックス法を中心に	鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 中原睦美 教授
	【心理検査】 知能検査や認知機能検査によるアセスメント 形式：講義 概要：Wechsler 知能検査（例、WISC-IV、WAIS-IV）や、認知症や軽度認知障害に対する認知機能検査の実際・解釈・活用の要点を解説する。	上智大学総合人間科学部心理学科 松田修 教授

◆◆9月◆◆

	講義内容	講師
9/21 (土)	【精神医学】 精神疾患Ⅱ	東京大学大学院医学系研究科 里村嘉弘 助教
	【発達】 自閉スペクトラム症の早期支援 形式：講義 概要：自閉スペクトラム症の中核症状である対人コミュニケーションの障害は、発達早期からの介入により改善することがわかっている。早期介入の方法について、子ども自身への介入（主にJASPERプログラム）と親への介入（主にペアレントプログラム）について解説する。	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 子どもケア学科 黒田美保 教授
9/22 (日)	【研究法】 研究法～精神保健/医学研究の始め方～	東京大学大学院医学系研究科 笠井清登 教授
	【精神医学】 精神医学の多角的理解 形式：講義 概要：精神医学では、心と身体の統合的理解が重要であるが、そのような考え方の一つである「多元主義」について紹介する。	京都大学大学院医学系研究科 村井俊哉 教授

◆◆11月◆◆

	講義内容	講師
11/9 (土)	【精神医学】 精神科薬物療法	東京大学大学院医学系研究科 神出誠一郎 准教授
	【心理療法】 認知行動療法 1 形式：ワークを交えての講義 概要：認知行動療法は、現実的な問題に関わりつつ心を支える援助方法である。ここではその実際について理解を深める。	上智大学総合人間科学部心理学科 毛利伊吹 准教授
11/10 (日)	【心理療法】 医療領域でのコラージュ療法 -ターミナル領域でのコラージュ・ボックス法の実際	鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 中原睦美 教授
	【精神分析】 力動的視点によるチーム支援の有効化 形式：講義 概要：力動的視点により、チーム支援がどのように有効になるかという観点から講義を行う。	京都大学 松木邦裕 名誉教授

◆◆1月◆◆

	講義内容	講師
1/18 (土)	【精神医学】 多職種連携	東京大学医学部附属病院 市橋香代 特任講師
	【心理療法】 認知行動療法 2 形式：ワークを交えての講義 概要：認知行動療法は、現実的な問題に関わりつつ心を支える援助方法である。ここではその実際について理解を深める。	上智大学総合人間科学部心理学科 毛利伊吹 准教授
1/19 (日)	【心理療法】 学校臨床におけるコラージュ療法 -スクールカウンセラー場面でのコラージュ療法導入の可能性	鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 中原睦美 教授
	【心理検査】 見えない心を可視化する — 心理アセスメントによるケース理解— 形式：講義・ワークショップ 概要：目に見えない心の構造を外在化して「見える」ものになると、自分を客観的に理解する稀有な経験となる。	中村心理療法研究室 中村紀子 国際ロールシャッハ学会会長 臨床心理士

	講義内容	講師
3/14 (土)	【精神医学】 精神疾患と脳	東京大学大学院医学系研究科 笠井清登 教授
	【心理療法】 認知行動療法 3 形式：ワークを交えての講義 概要：認知行動療法は、現実的な問題に関わりつつ心を支える援助方法である。ここではその実際について理解を深める。	上智大学総合人間科学部心理学科 毛利伊吹 准教授
3/15 (日)	【研究法】 論文執筆～研究のまとめかた～	東京大学大学院医学系研究科 笠井清登 教授
	【心理療法】 ストレスケアのためのコーピングと認知行動療法 形式：ワークショップ 概要：メンタルヘルスにおいて、セルフケアのためにも、援助者が当事者をケアするためにも、ストレスおよびストレスマネジメントの知識とスキルが不可欠である。 本講義ではそのために有効な手法であるコーピングと認知行動療法について、ワークショップ形式で学んでいただく。	洗足ストレスコーピング・サポート オフィス 伊藤絵美 所長

内容：

【精神医学】をテーマとした講義では、医療現場に携わっている医師より、精神科における受診見立て・見極め、発達障害や児童思春期をはじめとし、全般における精神疾患について、精神科における薬物療法の実際、医療機関における多職種連携について、精神疾患と脳についての基本的知識と最前線の研究について学ぶ。

【発達】がテーマの講義では、自閉スペクトラム症のアセスメントや支援現場の実際、早期支援について学ぶ。

【研究法】をテーマとした講義では、データ分析のはじめの一步として質的研究の入門、精神保健や医学における研究の始め方、研究論文のまとめ方について学ぶ。

【精神分析】をテーマとした講義では、多職種で活動するときにも必要となる精神分析の視点について学ぶ。また力動的視点がいかにチーム支援に有効となるかについて理解を深める。

【心理療法】をテーマとした回では、現実的な問題に関わりつつ心を支える援助方法として認知行動療法の回を3回設け、ワークを交えての講義により理解を深める。またセルフケア、ストレス及びストレスマネジメントのために有効な手法であるコーピングと認知行動療法についてワークショップ形式で学ぶ。さらに、コラージュ療法の回を3回設け、理論と実践、医療領域、学校臨床における導入の可能性や実際について学ぶ。

【心理検査】をテーマにした回では、Wechsler 知能検査や軽度認知障害に対する認知機能検査の実施・解釈・活用の要点を学ぶ。また目に見えない心の構造を外在化して「見える」ものにし、自分を客観的に理解する稀有な経験を講義・ワークショップ形式で学ぶ。

講義や演習（8時間×12日）と、学内（6時間×2日）や学外（6時間×2日）連携施設における実習を行う。（詳細は募集要項を参照）。

コースのコンセプト：

高度医療や心理の多様な領域の専門性を身につけることにより、現場においてさらなる高度な専門性を発揮し、一人の多様なニーズを抱える当事者に対し、包括的に支援できる人材の養成を目指す。